

意見

獣害対策でシカやイノシシを捕獲した後、残渣としてそのまま捨ててしまうのではなく、ジビエなどへの有効活用ができればと思う。

災害対策について、発災後に治山ダムを建設するなど、対応が後手に回っているように思える。災害が発生する前に対策できることはないだろうか。

各モニターとの意見交換を通じて、問題意識や意見が共有できて非常に参考になった。

資料を読むのと実際に現場を見るのでは、感じ方が全然違ったので勉強になった。

現場でドローンが活用されていたのを見て、これからは ICT 機器の時代であることを痛感した。全国的に普及が進めば負担軽減に繋がり、よいと思う。

近年は山を離れていく人が多く、放置された森林や竹林が目立っているので、森林組合に頼んで手入れをしてもらっている状態である。

多岐に渡る管理経営がなされていることを実感できた。
これらの取組があまり知られていないのは少々もったいない。

質問

低密度植栽の取組について、実証結果のデータが既に出ているようであれば教えていただきたい。

林野庁が行っている業務について、通常業務の他に突発的・緊急的な対応を迫られる業務はあるか。

一度伐採した山を表層崩壊から守るためには、どのような再造林や保護を進めていけば良いのか。

家族が山林を所有しているが、継続的な管理経営が困難。
同じように山林を持つ方は、どういう思いを持っているのか。

1. 事業現場に対する意見等

国有林の維持管理がどのようななされているか興味があったので、今回現地で植付、保育、伐採が60年サイクルで行われていることを知ることができ、参考になった。

治山事業の説明を受け、森林管理の大切さがよく分かった。

2. モニター会議に対する意見等

現場担当者からの説明は、林野行政をより深く理解するきっかけになった。今後は身近な方々への啓発にも取り組みたい。

現地ではすぐに質問に回答いただき非常に勉強になったが、重機による作業の見学やドローンによる現場確認ができればなお良かったと思う。

各地域から参加した人たちの問題意識について知ることができ、横のつながりを持てたことが良かったと思う。当事者と直接対話する機会をもっと増やしてほしい。

行政の取組もさることながら、地域住民が行政に対してアクションを起こすことも重要であることが理解できた。

3. 国有林野事業や、森林・林業全般に対する意見等

植林・間伐といった森林整備事業や治山事業、シカ対策など、幅広い分野の業務を行っていることがわかった。

少面積かつ点在していることが、国有林の有効活用や管理経営を行ううえで支障となっていることが分かった。

最近では地形が変わるほどの地震や豪雨などが頻発しており、長いスパンでの森林管理を行うことは本当に大変だと感じた。

レクリエーションや登山等、森林の良さを体感できるフィールドがもっと増えてほしい。

広報誌やイベント等を通じ、取組の情報を周知されているのはとても良いことだと思う。